

2026年9月米雇用統計

<米9月雇用統計概要>

・米9月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比+29千人と市場予想の+90千人を大きく下回った。また、過去2カ月分についても、7月分は+21千人から▲10千人、8月分は+162千人から+133千人と合計60千人下方修正された。

・業種別では、AI関連需要などにより建設や製造の雇用者数は底堅く推移したが、教育・ヘルスケアやレジャー宿泊などは前月から増加幅が大きく縮小したほか、情報、金融、専門・事業サービスでは減少が続いた。また、季節調整の影響を受けやすい地方政府部門の雇用減も全体を下押し、幅広い業種で雇用の伸びの鈍化がみられた。

・失業率については、4.2%と前月から上昇したが、解雇者は減少している。労働市場への新規参入、再参入により労働供給が増加し、労働参加率は61.8%へ上昇した一方で、企業の採用は抑制されていることが今回の失業率上昇の要因と考えられる。

・平均時給については、前月比+0.1%、前年比+3.0%と賃金の伸びは鈍化した。

<米9月雇用統計結果>

主要項目	9月分	市場予想(9月分)	8月分
非農業部門雇用者数(千人)	29	90	133(修正前:162)
失業率(%)	4.2	4.1	4.1
労働参加率(%)	61.8	61.6	61.6
平均時給(前月比)(%)	0.1	0.3	0.3
平均時給(前年比)(%)	3.0	3.1	3.1

【米国雇用統計について】

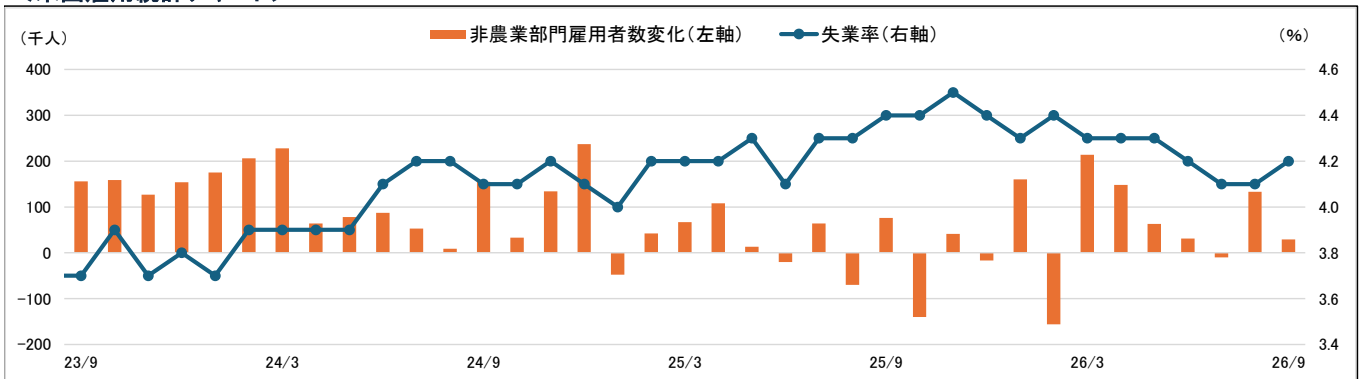
●米国雇用統計とは、米国雇用の情勢(失業者数や就業者数など)を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表される。指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。

●FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

<項目別の雇用者数増加幅(単位:千人)>

項目	今回結果	前回結果	項目	今回結果	前回結果
鉱業・木材伐採	▲2	3	専門・事業サービス	▲9	▲5
建設	11	16	教育・ヘルスケア	20	38
製造	9	15	レジャー・宿泊	10	37
貿易・運輸・公益事業	18	9	政府	▲17	44
情報	▲10	▲18	その他サービス	6	3
金融	▲7	▲9			

<米国雇用統計チャート>



<今回のポイント>

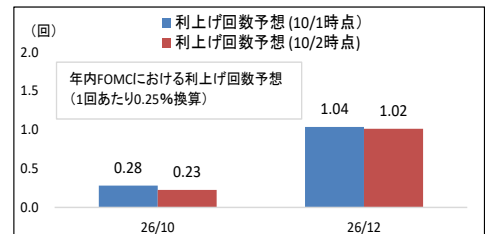
・今回の雇用統計では、雇用者数の伸びの減速が確認され、失業率は上昇したものの、労働参加率が改善するなど、労働供給の回復を示唆する内容であった。

・直近では、ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁やFRBジェファーソン副議長が利上げを急がない姿勢を示すなか、今回の雇用統計の結果はその見方を追認する内容となり、10月の利上げ観測は後退した。

・また、FRB内でも特にタカ派とされるクリーブランド連銀ハマック総裁についても、雇用統計の結果は最近の雇用情勢と整合的とし、次の政策対応を決めるまでに時間的余裕があると述べるなど、ハト派的な意見がみられており、2会合連続での利上げの可能性は低下したと考えられる。

<市場動向>

	10月2日	10月1日	前日比
ドル/円相場(円)	157.85	158.09	▲0.24
ダウ平均株価(ドル)	51,176.96	50,926.56	+250.40
S&P500指数(ポイント)	7,722.72	7,666.45	+56.27
NASDAQ総合指数(ポイント)	27,190.86	26,871.60	+319.26
米2年国債利回り(%)	4.82	4.79	+0.03
米10年国債利回り(%)	5.27	5.24	+0.03



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。